

## ワーク・ライフ・バランス

### ■主張

日本では多くの人があまりにも仕事に偏りすぎていたように思われる。しかし、成熟化した社会においては、人々の求めるものは多様化する。平均年齢も年々長くなり、現役として働く期間が延びている。こうした中で、働き方改革はもちろ

族、介護、地域活動、自己啓発・趣味、健康の八つの領域を含めて推進すること

例えば「短時間正社員制度」の運用の難しさがあ

を提唱している。

それを利用する側の意識や行動の変革が十分でないことも指摘されよう。

### 意識・行動変革の段階へ

日本では多くの人があまりにも仕事に偏りすぎていたように思われる。しかし、成熟化した社会においては、人々の求めるものは多様化する。平均年齢も年々長くなり、現役として働く期間が延びている。こうした中で、働き方改革はもちろ

実際の推進に当たっては、両立支援策などのコスト面が強調され、中長期的な観点でみたメリットも踏まえた議論が不足しがちである。同会議が7月に発表した提言「成長戦略の基盤はワーク・ライフ・バランス」においても、ワーク・ラ

土づくりに取り組むことが重要だ。制度導入による推進から、もはや意識・行動変革の段階に移ってきたのである。

ただ、これまでは仕事と子育ての両立に焦点が当てられがちであったが、これからはもっと幅広い観点からの取り組みが必要だ。「ワーク・ライフ・バランス推進会議」(事務局＝日本生産性本部)

向上や能力開発との好循環をつくり出すことが強調されている。現在、政労使会議で検討されている「経済の好循環」の実現のためにも不可欠な点だといえる。

誰かが年に一度は自らの働き方・暮らし方を見つめ直す機会を持ちたいものだ。「ワーク・ライフ・バランスの目」(11月23日)もある。仕事も生活も、優先度の高いことに取り組み、より充実した時間を過ごすため、ワーク・ライフ・バランスの意義をあらためて考えてみよう。